

## 「北朝鮮の水爆実験」

2016年01月11日

北朝鮮が核実験を行ったというニュースが走った。今回は4回目の核実験で、初めての水爆実験であると伝えられている。朝鮮中央テレビは「特別重大報道」として、アナウンサーが例の重々しい口調で成功を発表した。金正恩第一書記は「国家の主権と尊厳を守るため、原爆と水爆を自力で爆発させられる強大な核保有国になった」と大見得を切った。突然の核実験で、世界は衝撃を受けている。

何のための核実験なのか。北朝鮮は米国に国の存立を認めさせるために対等な交渉をしたいと願っている。具体的には、38度線に分割された時に結んだ「休戦協定」を「平和条約」に替えることである。教会員でツアーを組み韓国を訪ね、板門店に行った時、緊張し切った北朝鮮の兵士たちの姿を思い出す。現在の国際社会では、核保有国が圧倒的な発言権を持っている。北朝鮮が核を持ったことによって、ある意味の位置を占めたことは確かであろう。北朝鮮は核を楯に、米国と交渉したい訳である。

反面、核実験を行えば、世界から国連の安全保障理事会決議に違反すると轟々の非難を浴び、様々な制裁を受けることは分かっている。安保理は制裁に向けて早速、協議を始めている。それが分かっているにもかかわらず、実験を強行した。広島、長崎の被爆者たちはもちろんのこと、被爆国の日本の怒りは収まらない。しかし、在日韓国・朝鮮人に対して排除する罵声を挙げ、嫌がらせをしてはならない。在日は何の責任もないからである。日本国民の品位はここに表れる。

金第一書記は100名以上の人を粛清し、恐怖政治を行っている。経済は上向きになっているそうだが、貧富の格差は目を覆う状態であることに変わりはない。わいろ、売春が横行していると言われている。そのような状態でありながら、体制を維持、強化するために、水爆実験を成功させ、求心力を高めようとする目的であるという説もある。国民の生活を無視して、莫大な費用をつぎ込み、核開発を続ける権力者の非情さを思う。国民あつての国なのに、金第一書記のために国民は犠牲にされている。強権政治は必ず滅びるが、それまでに国民が支払う犠牲の大きさに胸が痛む。北朝鮮は正しくは「朝鮮民主主義人民共和国」と言う。人民の民主的な共和国と受け止める人は一人もいない。誰を指導者にするかによって国民生活は決定的に左右される。金王朝三代目の金第一書記を指導者にした北朝鮮の国民の悲劇を思う。金王朝は戦時中の日本の天皇制をなぞって、一人のために、他人の人権、生活はどうぞでもよいとしている。金体制を最も理解できるのは日本人ではないか。

今回の核実験は、水爆ではなかったとも言われている。原爆は核分裂によってエネルギーを作り出す。水爆は核融合によって、原爆の何百、何千倍の膨大なエネルギーを生み出す。核融合は高圧に耐え、1億度ほどの高熱によって可能になるという。その核融合は核分裂時の高熱に依存している。今回、核分裂はしたが、核融合の水爆の成功までには至らなかったと解説する人がいる。いずれにしても、人類に危機をもたらす核兵器を作ることには認められることではない。

今年の正月、再放送されたテレビ「映像の世紀」を観た。歴史は権力たちの言動で刻まれる実態を映し出していた。どの国の権力者も自分たちの国は力を持っていると奢り合っている。その陰で民衆は苦しんでいるのであるが、権力者たちの言動は子ども染みて、滑稽である。金第一書記は過去の権力者たちの姿を彷彿とさせる。そして、安倍首相の最近の言動は、それと重なって見える。力を誇示する安倍首相を指導者にしてはならない。